

わたしから始まる高知の食育

～毎月19日は「食育の日」～



「命をいただく」大切さを学ぶ

「こうち畜産物フェア」食育教室を実施しました

今年度、農林水産課では、畜産品の需要喚起や、畜産業について知っていただくことを目的に「こうち畜産物フェア」事業を実施しました。

その中で、子どもたちに、畜産物が食べ物として食卓に並ぶまでの過程について知ってもらい、「命をいただく」大切さや畜産の仕事への理解を深めてもらうため、親子対象の食育教室を行いましたのでご紹介します。



【牛コース】

岡崎牧場にご協力いただき、小学生の親子を対象に、牛の心音聴診や哺乳などのふれあい体験や、バター作りを行いました。

農家さんからは、牛が安心しておいしいお乳を出せるように大切に育てていること、牧場の牛は「ペット」と違い、人間が生きていくために飼っている「家畜」であることなどのお話をいただき、食と命のつながりについて感じることができました。

【鶏コース・豚コース】

高知農業高校の皆さんによる、養鶏や養豚の仕事についての授業の後、フードコーディネーターや料理人による料理教室を行いました。

参加した小中学生からの感想を、一部ご紹介します。

- ◎ 大事に育てて大きくなったらお肉になる。かわいそうだから大事に食べたいと思った。
- ◎ 畜産品を使った料理はたくさんあり、普段の生活でもよく食べていることに気づいた。これからは作ってくれた人に感謝したい。
- ◎ いつもだれかの一つの命をもらっているから大切に食べたい。
- ◎ 豚と、苦労して育ててくれる人たちにむけた「いただきます」の大切さを改めて理解した。
- ◎ 生産者さんがいてくれて食事ができることを忘れずにいたい。



日常生活で忘れがちな「命をいただく」ことの大切さを、大人も改めて感じる事ができたと思います。